

学校経営推進費評価報告書（2年め）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立寝屋川高等学校 全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現・生徒の学力の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 希望進路実現率向上：現役国公立大学合格者数3年後に130人（平成28年度81人） ・ 大学センター試験における、全国平均に対する寝屋川高校生徒平均得点率を3年間で10%向上 ・ 生徒の授業満足度向上：強い肯定回答率50%以上（平成28年度強い肯定35%、肯定52%、肯定以上計87%）
計画名	<p>キー・コンピテンシー能力育成を念頭に置いた授業力向上計画 ～真善美の寝屋川高校は、1200人1200通りの伸びと自己実現を支援します！～</p>

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学力を伸ばす <ol style="list-style-type: none"> (1) 組織的な授業研究の推進「考える力の育成」「双方向の授業」 (2) 新たな教授方法や教材の開発、外部資源の活用 (3) 3年間の学習目標と計画の策定「基礎基本の徹底」 (4) 学力把握と分析による戦略的仕掛けと全体化 (5) テンミニッツの推進とタブレットの活用 (6) 講習、補習の計画的実施と内容の充実 (7) ICTを活用したわかりやすい授業づくり (8) 学習指導要領や大学入試制度改革に向けた準備と対策 2. 21世紀型能力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 主体的、能動的学習の確立「A.Lの進化」 (2) 部活動の積極的推進「個と集団の力」 (3) コミュニケーション能力の育成「プレゼンの機会設定」 (4) 生徒主体のHR活動や行事の企画運営「自主自立」 (5) 休まず続けることができる生徒の育成「粘り強い精神力」 (6) 豊かな人権感覚と国際感覚を育む体験学習の推進「多様性」 (7) 文化活動、読書活動の積極的推進 (8) 社会貢献やボランティア活動、各種コンテストの推奨
事業目標	<p>本校は現在キー・コンピテンシー能力育成を念頭に置いた授業改善を進め「真善美」*の学力向上をめざして取り組んでいるが、まだまだ生徒の伸びしろは十分ある。そこで、各HR教室に短焦点プロジェクターを設置し、ICTを活用した授業の充実を中心に更なる授業改善の取組みを進める。</p> <p>「視覚や聴覚に訴える」「板書時間の削減」等を実施することで、座学授業はもとより実験・実習を含むすべての授業で「生徒が自主的に取り組み活動する時間を確保する。それにより、様々な生徒主体の活動を取り入れる」ことで、生徒一人ひとりがそれぞれに「まだ見ぬ己（なりたい自分）」を発見し進路目標をしっかりと持つことにより、学習に対する意識を高め、進路実現（現役合格）をかなえることを支援する。</p>

	<p>* 真善美：寝屋川高校校訓知性（認識能力）、意志（実戦能力）、感性（審美能力）のそれぞれに応じる超越的对象</p>
整備した設備・物品	<p>短焦点プロジェクター（20台） （これに加え、学校の予算および後援会の支援により10台追加し、すべてのHR教室30室に設置し事業展開した。）</p>
取組みの 主担・実施者	<p>「授業力向上PT」 校長・教頭・首席・指導教諭・教務主任・進路指導主事・情報主担・学力向上委員会・プロジェクター活用得意者・プロジェクター活用不得意者 * 「授業力向上PT」内に、ICT活用に特化したPTとして定時制も含めた「ICT委員会」を設置（主担：教頭、管理情報室、研究開発室、学年から1名、定時制から1名、ICTに不慣れな者1名） 実施者は全教職員</p>
本年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、全ての教科で授業に活用。HR活動でもほとんどのクラスで活用した。 「ICT活用委員会」と「学力向上PT」が共催で活用についての検討を進めていく方向で計画していたが、今年度は課題を絞り、別々に進行した。ICT活用研修として、3回実施。9月はICTの活用方法に加え、本校生につけさせたい力とは何かを共有した研修を実施。12月は「勉強会」形式で本校教員5名による事例・実践発表を行った。3月にはパッケージ研修と絡めて授業力向上の観点からのICT活用研修とした。 先進的取組校への取材についても、2校に取材を行ったが、今後内容の共有方法について検討していく。 今後、「学力向上PT」を「学力向上推進委員会」に改編し、「ICT活用委員会」と連携した取組みを進めていく。また、授業アンケートの分析と情報共有し、次年度に向けた教科別活用の検討・決定につなげていく。
成果の検証方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学「現役」合格者数：前年度比10人増（平成29年度80人） 大学入試センター試験の全国平均に対する寝屋校生得点率前年度比5%向上 （平成29年度：国語109%数学110%英語112%） 学校教育自己診断の「授業のわかりやすさ」「授業での生徒の活動機会」の項目：強い肯定を前年比5%向上 （平成29年度：強い肯定31%、38%・肯定以上87%、87%） 授業アンケート全体・項目⑤「教材の工夫」の向上（平成29年度：3.21、3.22）
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学「現役」合格者数 …………… 90名（○） 大学入試センター試験の全国平均に対する寝屋校生得点率 …………… 国語114%（○）、数学109%（△）、英語113%（△） 学校教育自己診断の「授業のわかりやすさ」「授業での生徒の活動機会」の項目 強い肯定だけでなく、肯定以上も低下 …………… 82%、85%（△） 授業アンケート全体・項目⑤「教材の工夫」 …………… 3.26、3.26（○） 教員がICT活用授業について計画的に取り入れている割合は、H28年度までは約3割であったが、この事業に取組むことで、約5割の教員が積極的に取り組むようになった。また、「ICT活用指導力調査」を見ても、学校全体として上昇している様子がうかがえた。 全体としてICT活用については（◎）、授業評価や学校教育自己診断の結果については（△）
次年度に向けて	<p>次年度に向けて、パッケージ研修Ⅲを活用しながら、生徒により分かりやすい授業を実施することで、生徒の理解度を高め、学力向上をめざす。 そのために、全教科において、生徒につけさせたい力、学校の理念を共有化し、全教員が参加する研究授業・研究協議等を推進していく。 Wi-Fiの環境整備が必要である。</p>